

英語力がなかなか向上しないのは、多くの日本人の悩みだ。出版界では最近、文法や単語力の大切さを訴える新書や、英文を「精読」する魅力を伝える本が相次いで話題を呼んでいる。英会話重視の風潮の中で、意外な原点回帰の流れが起きている。(文化部 武田裕芸)

2021年6月15日(火)

究

■基礎ドリル

△ニュースや講演のように、話者が聞き手を意識してはつきりと話している英語を聞き取れないとすれば(略)読解力も原因だと考えてほば間違いありません。

冒頭から少し厳しく読者を「激励」するのは、北村一真・杏林大准教授の『英語の読み方』(中公新書)だ。新聞やSNSなど様々な場面で使われる英語の読み方のこつを、分野別に紹介する。お薦めの一冊に、駿台文庫の『英文法基礎10題ドリル』を挙げるなど、導入部で文法や単語力の必要性をはつきりと訴える。担当編集者の楊木文祥さん(32)は「仕事などの場で本当に役に立つ英語本を作りたいかった」と語る。硬派な内容にもかかわらず発売

英語上達 読解から

後すぐに重版され、現在、今年出た中公新書の中では最多の4万5000部に達した。

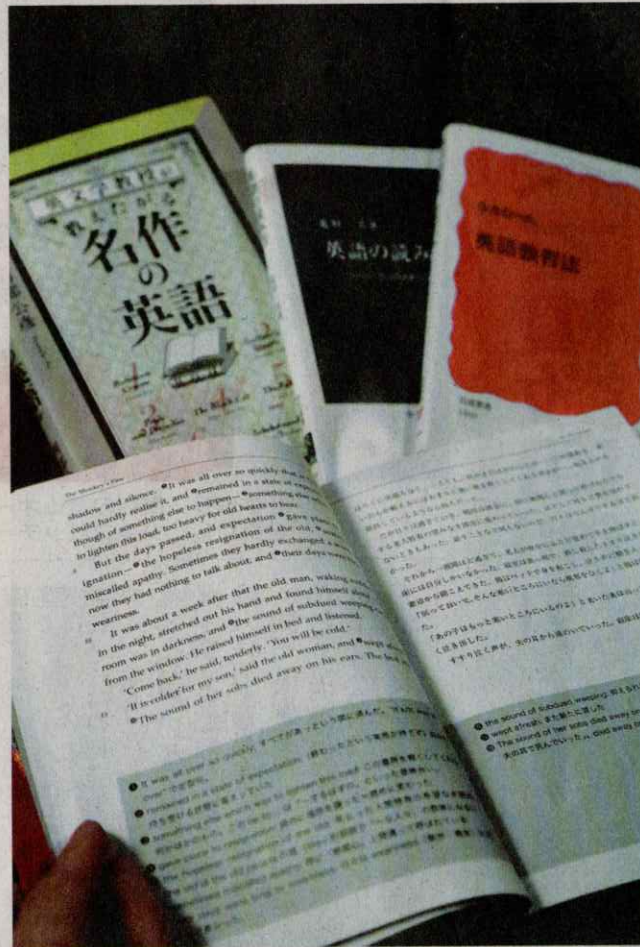
昨年末に岩波新書から出た今井むつみ・慶大教授の『英語独習法』も、現在6刷11万部と人気だ。例えば「a」と「the」の違い

を考える際、文法の理解だけでなく、背景にある「知識のシステム」を理解する大切さを説く。英語への深い興味を重んじる点は、『英語の読み方』に通じる。

■原文と読み比べ
著名な英米文学者が、原

文とじっくり向き合う楽しみを教える話題作も相次ぐ。研究社は4月、柴田元幸さんが編集と訳文、注釈を担当した全6巻のシリーズの刊行を始めた。その名も、「英文精読教室」ならぬ『英文精読教室』——。見開きの左ページに英語

「文法・単語力重視」復権



話題を呼んでいる英語本—三浦邦彦撮影

阿部公彦・東京大教授—写真—は、「外国語を学ぶとは、異なる(言語)システム



の間を自在に出入りすること」と語る。「新型コロナウイルス禍にある今こそ必要な柔軟な発想力が、深く学ぶことで育まれる」と訴える。

柔軟な発想 育める

阿部公彦・東京大教授

さらに、現在のような非常の時にこそ、あえて外国語で文学作品を少しでも読んでみるのが役立つと語る。「物語を読むことは、答えの出ない葛藤とつき合うことになる。それらとつき合うことで、現実に向き合う力を養える」

会話ばかりが重視されがちな現代の傾向については、「誰かと英語で話すには、まず考える力が必要となる。読むことは、会話以上に私たちに多くの情報を与える。英語で発信するには、読解の力が土台となることを理解してほしい」と強調する。